

「鎌倉の海」における環境美化活動の現状と課題

中西 悠¹・林 宙生²・浮貝侑弥²・西田 駿²・治田祐輝²

(¹ 岡崎市立豊富小学校, ² 愛知教育大学・学)

- | | |
|----------------------------|---------|
| I はじめに | IV おわりに |
| II 「鎌倉の海」における環境美化活動の展開 | |
| III 「鎌倉の海」利用者からみた環境美化活動の課題 | |

キーワード：環境美化活動，海岸利用者，「鎌倉の海」，神奈川県鎌倉市

I はじめに

1. 研究の背景と目的

2017年4月，国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)は，「しんかい6500」「ハイパードルフィン」などの潜水調査船や無人探査機を用いて撮影した「海底ごみ」(深海デブリ)の映像・画像を，「深海デブリデータベース」としてWeb上に公開した¹⁾。このデータベースでは，海底ごみの分類ごとに映像や画像を閲覧することができる。海に捨てられたり川から海に流れ着いたごみは，このデータベースにあるように海底に沈むこともあれば，海を漂い続けて海岸に打ち寄せられることもある。近年，こうした「海のごみ」は美しい都市環境や浜辺環境の維持にとっても大きな問題となっている。

藤枝ほか(2007)は，1990年から2005年までの16年間に日本国内で実施された「国際海岸クリーンアップ(ICC)」の結果から漂着物ごとの回収量の変動を明らかにし，この間の海洋ごみ問題の推移を報告した。国際海岸クリーンアップ(ICC)とは，「広範な市民が，世界共通のデータカードを使用して水辺・水中に漂着散乱するごみを回収しながら，その品目別個数を求め，さらにはその結果から改善策を考え，提言していこうという国際的な調査・清掃活動」(藤枝ほか2007:33)のことであり，後述する鎌倉の海を守る会が主催するビーチクリーンアップ活動も，この国際海

岸クリーンアップの一環に位置づけることができる。このような全国規模の海洋ごみ問題調査に加え，今後は特定地域の海岸において環境美化活動がいかに行きわたらせられ，また海岸利用者による活動認知度等の調査を通じて，環境美化活動の地域的課題を明らかにしていく必要がある。

そこで本研究では，神奈川県鎌倉市の「鎌倉の海」で環境美化活動を展開している団体に聞き取り調査を行うとともに，「鎌倉の海」を訪れていた海岸利用者に対してアンケート調査を実施し，「鎌倉の海」における環境美化活動の現状と今後の課題を明らかにしたい。

2. 「鎌倉の海」の概観

神奈川県鎌倉市の主な海岸は，東から順に材木座海岸・由比ヶ浜・坂ノ下海岸・七里ヶ浜・腰越海岸で構成されている(図1)。本研究では，これらのうち由比ヶ

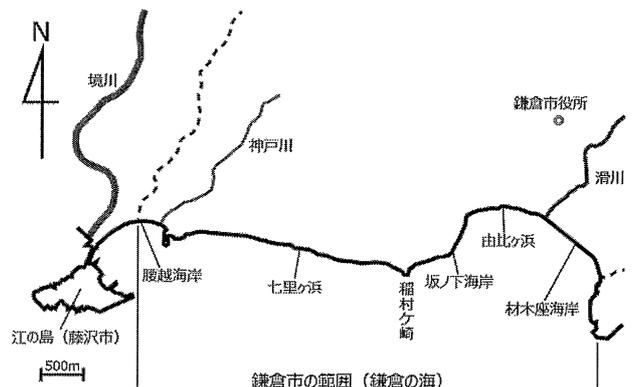


図1 「鎌倉の海」の位置

浜と材木座海岸で「鎌倉の海」利用者のアンケート調査を行った（図2）。由比ヶ浜と材木座海岸は、鎌倉市内の海岸のなかでも特に観光客やサーファーといった利用者が多く、幅広い出身地や年齢層、利用目的そして環境美化への評価を調査することができると考えたからである。



図2 由比ヶ浜におけるアンケート調査の様子
(2016年3月8日、阿部亮吾氏撮影)

由比ヶ浜は相模湾に面した鎌倉市街地南部の海岸であり、材木座海岸とは滑川をはさんで陸続きになっている。滑川河口を境界に西側を由比ヶ浜、東側を材木座海岸とよぶ。由比ヶ浜は全長約890m、材木座海岸は全長約1100mとともに奥行きは約40mの海岸である。由比ヶ浜は江ノ電和田塚駅・由比ヶ浜駅・長谷駅から徒歩で約5分、材木座海岸は京急バスの材木座バス停から徒歩2分の距離である。いずれの海岸もJR鎌倉駅からは徒歩で約15分程度かかる。由比ヶ浜、材木座海岸はともにサーフィンの名所であり、一年中サーフィンを行う人でにぎわっている。また、夏期には鎌倉市の管轄のもと海水浴場が開設されており、多くの観光客が訪れるレジャーの海岸でもある。

本研究ではまず、この「鎌倉の海」で環境美化活動を展開する2つの団体への聞き取り調査から、その現状を把握する(Ⅱ)。つづくⅢでは、アンケート調査の結果から、海岸利用者が有する環境美化への評価や認知度を明らかにし、「鎌倉の海」の環境美化活動における課題を考察したい。

Ⅱ 「鎌倉の海」における環境美化活動の展開

1. 「鎌倉ライフガード」とビーチクリーン

1989年に設立された鎌倉ライフガード（以下、鎌倉LG）は、「海浜の安全を確保することで地域の人々

とともにきれいで楽しい鎌倉の海づくりに貢献する」ことを目的とした団体である²⁾。同団体ホームページによると、会員数は83名（2011年3月時点）である。10代の高校生から50代までの幅広い年齢層が会員となっている。会員の属性は学生が約4割、社会人が約6割であり、職業は公務員・消防士・看護師など多岐に渡っているという（鎌倉LGに対する聞き取り調査（2017年3月7日実施）による。以下同）。

鎌倉LGの主な事業は、鎌倉市内3海岸（材木座、由比ヶ浜、腰越）ならびに沿岸地域におけるパトロール事業、ライフセービング活動の普及に関する事業、ライフセービング技術・知識向上に関する事業、地域との交流事業、ライフセービングを通じた児童・青少年の育成に関する事業、海岸美化・環境保全・清掃に関する事業が挙げられる。

清掃事業は若宮大路で実施されている。JR鎌倉駅から由比ヶ浜までを範囲とする若宮大路での清掃作業は、green bird³⁾の一員として行われている取り組みである。参加人数は毎回5人～10人程度であるという。

一方で「鎌倉の海」における環境美化活動は月に1回、第2土曜日に由比ヶ浜や材木座の砂浜において清掃が実施されている。参加者は15人ほどで、すべて鎌倉LGの会員である。約80人の全会員のなかでも鎌倉LGの活動への参加頻度は大きく異なっており、コンスタントに参加するのは30人程度である。そのうち、海岸美化活動のビーチクリーン開催日に参加できる会員がおよそ15人なのである。なお、ビーチクリーン開催中に多く見かけるごみは煙草の吸殻・空き缶・ペットボトル・ガラス片などであるが、煙草の吸殻は減ってきている印象だという。これらのごみは鎌倉市外や神奈川県外からの観光客がコンビニやスーパーで買い出しをしたものを持ち込んで、浜辺に捨てていくことで生まれることが多いそうである。

主な活動目的が海の安全確保である鎌倉LGは、月に1度の「鎌倉の海」のビーチクリーンや若宮大路の清掃活動を地域貢献の一環として位置づけており、海岸や街の環境美化を通じて鎌倉LGの存在や活動を地域の人々に知ってもらうことが目的である。しかしながら、ビーチクリーン参加者がやや少数になること、ビーチクリーンの担当者が1名しかおらず、都合が合わないと海岸美化活動が行えないなども課題であろう。そのため、SNSなどを利用して外部へ情報発信し、より活発に活動することが現在の目標である⁴⁾。

2. 「鎌倉の海を守る会」とビーチクリーンアップ

(1) 「鎌倉の海を守る会」の沿革

鎌倉の海を守る会（以下、かまうみ）の活動は、鎌倉市が1996年8月に発表した腰越漁港とその周辺海岸整備事業構想（以下、腰越問題）への反対運動に端を発している（かまうみに対する聞き取り調査（2017年3月8日実施）による。以下同）。「腰越問題」とは、「腰越漁港の整備・拡大、小動岬南東斜面の崩落防止、および七里ヶ浜に向けた漁港区域内の海岸の保全・防災対策として、防波堤や突堤を建設するという計画」のことである。この計画に対して、かまうみ役員は鎌倉市に反対の陳情書を提出した。この陳情書は市議会選挙ともなつて効力を失ったものの、1997年6月10日に事業の基本構想を見直すことを当時の鎌倉市長が決定するに至つた。

上記の腰越問題を自然環境保護の立場から考えることで始まつたかまうみは、これまで鎌倉市の海岸環境を維持・改善するためにさまざまな活動を展開してきた。その活動は、行政に対する意見と自然環境の経年観察の大きく2つに分けられる。

腰越問題はその後、2000年3月から市民と鎌倉市の意見交換会が開かれ、そこにかまうみの役員が2名出席した。そこでかまうみは、反対意見や慎重論もあることを明記した報告書を作成するように要望書を提出している。2008年秋に工事が着工してからは、鎌倉市に対して工事の状況や環境モニタリングの結果を聞き、工事の監視を続けたのである。なお腰越漁港の改修工事は2014年8月29日に完了した。

かまうみは、江ノ電鎌倉高校駅前交差点改良計画にも意見を述べてきたという。この計画は、鎌倉高校駅前交差点の交通改善を目的としたものである。2006年に事業の計画説明会が開かれ、これに対してかまうみは見直しを求める署名を集めて、県議会と市議会、市長に提出した。2008年11月に県・市とかまうみが直接意見交換を行った結果、七里ヶ浜擁壁が台風で損傷していたこともあり、この改修も含めて2013年度に事業は着工することになった。

自然の経年観察としては、1999年6月から磯の観察会が、2006年11月から浜の植物観察会が、2007年からはアカテガニ観察会が毎年開かれてきた。なお磯の観察会は、対象としていた磯の環境が変わってしまい観察が困難となったため、2013年から中止となっている。アカテガニ観察会では、近年アカテガニが減少していることが経年観察でわかっている。

かまうみの会報『KAMAUMI』によれば、会の活動

には発足以来2度の繁忙期と2度の閑散期があるように判断できる。第1次繁忙期は、会発足の1996年から2000年頃までの5年間である。この時期はかまうみが腰越問題に関わっていた時期である。同時に鎌倉漁港や鎌倉海浜ベルト事業なども計画されていた時期であり、かまうみはそれらの事業にも委員として参加し、意見を出している。

第1次閑散期は2001年頃から2004年頃までである。この時期はそれぞれの事業に大きな進展がなく、腰越問題は調査の結果待ちであった。かまうみの発行する会報『KAMAUMI』(vol.24) (2004年4月10日付)でも、「現在海岸付近にはこれといった問題もない」と述べられている。この間、かまうみは2001年にJR鎌倉駅で活動の展示を始めたり、中学校の校外学習を初めて受け入れたりしている。2003年には「水辺利用の安全を考える全国大会」（びわ湖自然環境ネットワーク主催）にも参加した。

第2次繁忙期は2005年頃から2008年頃までである。2004年9月に腰越漁港整備の調査報告書がかまうみに送られ、腰越問題が工事に向けて動き出したからである。かまうみは説明会に参加したり、質問状を提出したりした。また、2006年に鎌倉高校駅前交差点改良計画が出たため、それに対して署名を集める、陳情書を提出するなどの対応をとった。

そして第2次閑散期が2009年頃から現在まで続いている。2008年秋に腰越漁港の工事が始まつたため、腰越問題が一区切りついたものと考えられるが、改修工事中も監視は続けられた。鎌倉高校駅前交差点改良計画も2008年11月に意見交換を行つて以来大きな動きがなく、工事は2013年に着工となった。その結果、2010年まで年3回発行していた会報は2011年から年2回に減少した。既述の通り磯の自然観察会は2013年に、JR鎌倉駅での活動展示も2015年に中止となつており、活動の停滞がうかがえる。

(2) 「鎌倉の海を守る会」のビーチクリーンアップ

かまうみによるビーチクリーンアップ活動は1997年5月25日に初めて行われた。対象地域は鎌倉市内の海岸全域（図1）である。当該活動を始めたきっかけは、上記腰越問題をはじめとした海岸整備事業が「鎌倉の海」の自然環境を破壊してしまうことを市民に知ってもらうために、誰もが気軽に参加できる活動をしよつと考へたことにあるという。当初はビラ配りなどを通じてボランティアを募つて活動が行われた。

かまうみのビーチクリーンアップは毎年5月と9月

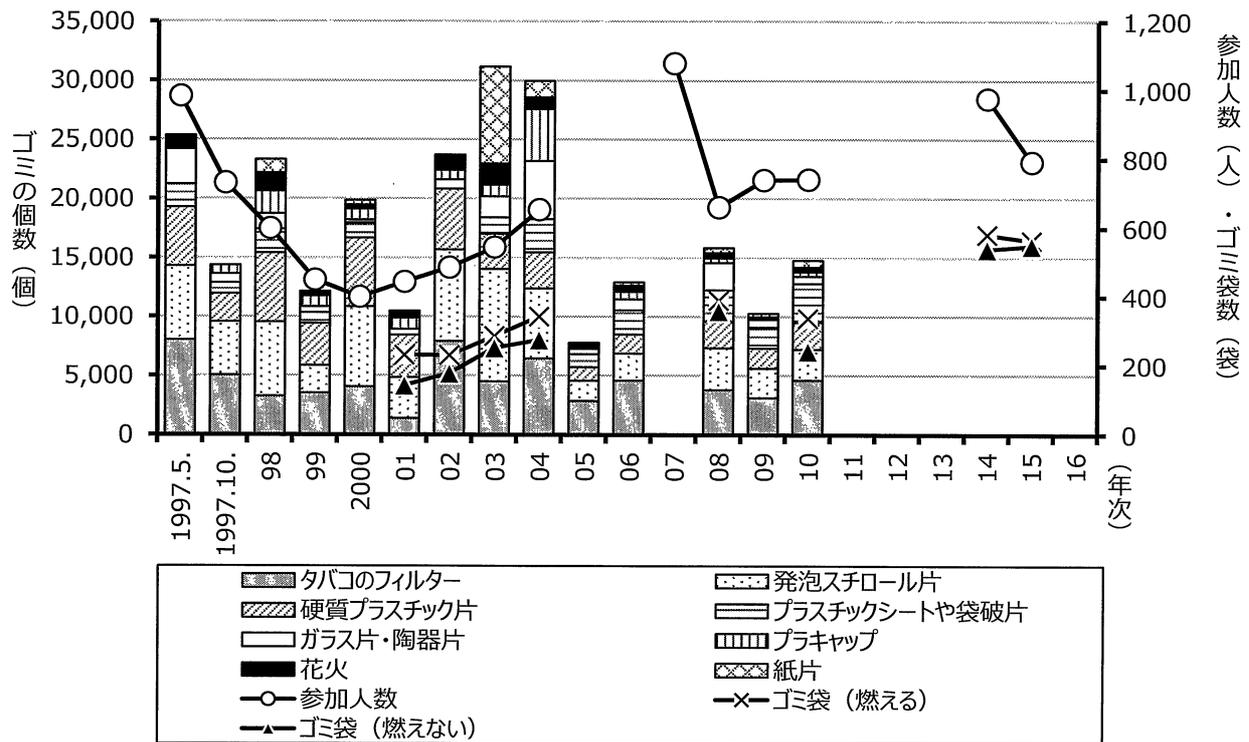


図3 「鎌倉の海を守る会」によるビーチクリーンアップ活動の参加者数とごみの個数の推移
（会報『KAMAUMI』をもとに作成）

の計2回行われている。5月のビーチクリーンアップはごみを拾うための活動であるが、9月には拾ったごみの個数が品目ごとに集計されている。ごみのデータ集計活動は米国サンフランシスコに本部をおく海洋自然保護センターの活動の一環であるという。このキャンペーンは、世界中の海岸で同時にごみのデータを集めることで、海のごみ問題を根本から解決しようとする世界的運動である。日本では一般社団法人 JEAN が中心となっている⁵⁾。

図3は会報『KAMAUMI』に掲載された、かまうみの秋のビーチクリーンアップへの参加者数と、代表的なごみの種類・個数の推移を示したものである。会報に記載がなかった年次や項目は空欄となっている。なお、2011年と2013年はデータの記載がなく、2012年と2016年は雨天のために中止であった。

図3からは、かまうみのクリーンアップで最も拾われているごみは「タバコのフィルター」であることがわかる。年によって増減はあるが、だいたい毎回3,000～8,000個程度のフィルターが拾われている計算である。かまうみは1998年から海水浴シーズンにビーチパトロールを行い、日本たばこ産業（JT）の協賛のもと、タバコの吸殻のポイ捨て防止を呼び掛けながら携帯用灰皿の配布を行っている。神奈川県では、2010年5月の「神奈川県海水浴場等に関する条例」の施行

以来、海水浴場では原則禁煙となったが、図3を見る限りタバコに関するごみは減少したとはいえない。

参加者数は天候などに左右されるものの、おおむね毎回500～1,000人程度である。ただし、これはかまうみの受付を通して参加した人数であるため、実際には数字以上の参加者がいる可能性もある。

Ⅲ 「鎌倉の海」利用者からみた環境美化活動の課題

Ⅲでは、2017年3月8～9日に「鎌倉の海」（由比ヶ浜、材木座海岸）で行ったアンケート調査結果をもとに、海岸利用者の立場からみた環境美化活動の実態を把握したい。アンケート調査の概要は表1の通りである。

表1 アンケート調査の概要

調査日	2017年3月7～8日
対象者	「鎌倉の海」の利用者
場所	由比ヶ浜、材木座海岸のビーチ
方法	海岸利用者に対面式で調査し、調査票に回答を記入してもらう。
回収数	197

1. アンケート回答者の属性

アンケート回答者の性別は半数以上が女性（58.9%）であった。職業で多いのは圧倒的に学生（121人、

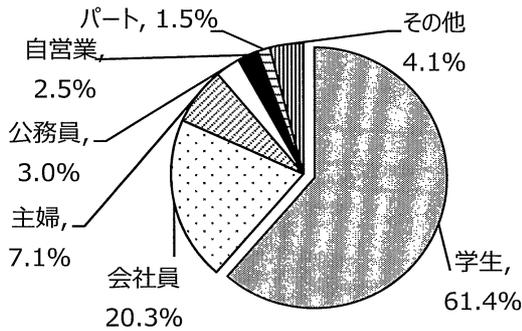


図4 アンケート調査回答者の職業
(アンケート調査より作成)

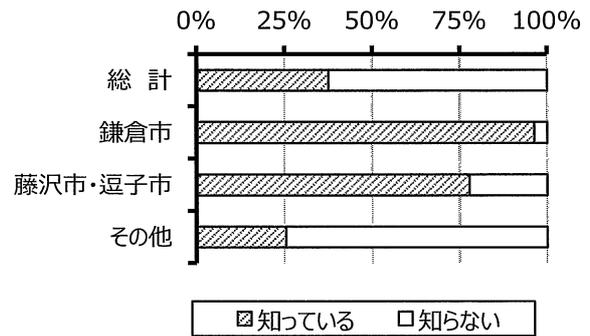


図5 「鎌倉の海」の環境美化活動に対する認知度
(アンケート調査より作成)

表2 年齢層別の利用目的

年齢層	～20代		30～40代		50代以上	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
観光	67	48.9	5	14.7	1	3.8
レジャー・スポーツ	10	7.3	18	52.9	3	11.5
散歩	31	22.6	5	14.7	14	53.8
デート	12	8.8	1	2.9	0	0.0
海を見るため	14	10.2	3	8.8	3	11.5
その他	3	2.2	2	5.9	5	19.2
総計	137	100.0	34	100.0	26	100.0

(アンケート調査より作成)

61%)であり、回答者総数の6割を超えている(図4)。調査実施日が大学生の春休み期間中であったことも影響したものと思われる。また会社員(40人)や主婦(14人)、定年退職した高齢者も一定数いた。

「鎌倉の海」利用者の年齢層と利用目的(表2)をみると、20代まで(137人)では、「観光」目的の利用者が67人(48.9%)と最多で、「散歩」目的の31人(22.6%)がそれに続く。次に、30～40代(34人)では「レジャー・スポーツ」(サーフィン等)目的の利用者が18人(52.9%)と最も多かった。また、「その他」のなかには子どもの引率や日光浴、俳句を詠むことを目的に挙げた回答者もみられた。一方、50代以上(26人)では「散歩」目的での利用者が14人(53.8%)と突出して多かった。

2. 「鎌倉の海」における環境美化活動の認知度

「鎌倉の海」利用者の環境美化活動に対する認知度は、図5のようになった。回答者全体では、環境美化活動の実施について「知らない」人の方が多かった。

これを回答者の居住地別で分析してみると、鎌倉市内居住者のほとんどが環境美化活動について「知っている」という結果になった。鎌倉市内の居住者にとって、「鎌倉の海」の環境美化活動は地元での出来事であるため、認知度が高いものと考えられる。また、鎌

倉市に隣接する藤沢市と逗子市の居住者においても、「知っている」回答者の割合がかなり多くなった。これら相模湾に面する鎌倉市・藤沢市・逗子市の3市を総合してみると、「知っている」が33人(91.7%)、「知らない」が3人(8.3%)となって活動認知度は高い。一方で、鎌倉市・藤沢市・逗子市以外の居住者(161人)の認知度は総じて低くなった。

以上のことから、居住地が鎌倉市に近く、「鎌倉の海」や相模湾のビーチを共有する地域の回答者ほど、海岸の環境美化活動の認知度は高くなることがわかった。

3. 「鎌倉の海」に対する維持管理費の支払意志額

次に、「鎌倉の海」の美化環境維持に対する管理費の支払意志額の分析を行う。ここでいう「維持管理の支払意志額」とは、特定の対象物を維持・管理するために「個人が支払ってもよいと考える費用」のことを指す。この金額の高低は、「鎌倉の海」への関心度やその資産価値を、回答者がどのように判断しているかを浮き彫りにする。

表3～5は、回答者の性別、年齢層および認知度と支払意志額をクロス集計した結果である。まずは性別の傾向をみてみると(表3)、「鎌倉の海」の維持管理費に対する支払意志額は「500円」の区分で男女間の回答数に大きな違いがみられた(男性30.9%、女

表3 性別×支払意志額

性別	「鎌倉の海」の管理維持のために払ってもよいと考える費用											
	0円		500円		1,000～3,000円		3,000～5,000円		それ以上		総計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
男性	11	13.6	25	30.9	31	38.3	7	8.6	7	8.6	81	100.0
女性	20	17.2	56	48.3	36	31.0	3	2.6	1	0.9	116	100.0
総計	31	15.7	81	41.1	67	34.0	10	5.1	8	4.1	197	100.0

(アンケート調査より作成)

表4 年齢層×支払意志額

年齢層	「鎌倉の海」の管理維持のために払ってもよいと考える費用											
	0円		500円		1,000～3,000円		3,000～5,000円		それ以上		総計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
～20代	25	18.0	61	43.9	45	32.4	4	2.9	3	2.2	139	100.0
30～40代	3	8.6	12	34.3	12	34.3	5	14.3	3	8.6	35	100.0
50代以上	3	13.0	6	26.1	8	34.8	2	8.7	4	17.4	23	100.0
総計	31	15.7	79	40.1	65	33.0	11	5.6	10	5.1	197	100.0

(アンケート調査より作成)

表5 「鎌倉の海」の環境美化活動認知度×支払意志額

美化活動の認知度	「鎌倉の海」の管理維持のために払ってもよいと考える費用											
	0円		500円		1,000～3,000円		3,000～5,000円		それ以上		総計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
知っている	3	3.8	28	35.0	29	36.3	11	13.8	9	11.3	80	100.0
知らない	27	23.3	50	43.1	38	32.8	1	0.9	0	0.0	116	100.0
総計	30	15.2	78	39.6	67	34.0	12	6.1	9	4.6	197	100.0

(アンケート調査より作成)

性48.3%)。また、男性は「1,000～3,000円」の区分で最も多く(31人, 38.3%)、一方で女性は「500円」で回答者数が最も多くなった(56人, 48.3%)。このことから、女性よりも男性の方が「鎌倉の海」に対して若干高い関心を示していることが推測された。

次に年齢層との関係のみをみてみよう(表4)。それによると、20代までは「500円」(61人, 43.9%)が、30～40代は「500円～3,000円」が、そして50代以上で「1,000～3,000円」が最多となった。また、20代までは「0円」とする回答者も多い一方、30～40代では「3,000～5,000円」、50代以上では「それ以上」と回答する者も少なくなかった。全体の傾向としては、年齢層が高くなるにつれて支払意志額も増加しているが、この点については「鎌倉の海」への関心の多寡のみならず、20代に金銭的余裕のない「学生」が多くいたことも考慮する必要があるだろう。

「鎌倉の海」の環境美化活動に対する認知度との関係(表5)では、「知っている」回答者は「1,000～3,000円」の区分で回答数が最も多く(29人, 36.3%)、「500円」(28人, 35.0%)でほぼ同数であった。一方、「知らない」

回答者は「500円」が最多で(50人, 43.1%)、「1,000円～3,000円」(38人, 32.8%)よりも大きな割合となっている。「知っている」と答えた者には、「3,000～5,000円」(11人, 13.8%)や「それ以上」(9人, 11.3%)も一定数いることを考えれば、総じて「鎌倉の海」における環境美化活動を認知している利用者の方が、「鎌倉の海」に対する関心や愛着の度合いが高いことがうかがえた。これはそのまま、既述の通り鎌倉市近辺の居住者である可能性も示唆されよう。

IV おわりに

本研究では、ライフセービング活動を主とする鎌倉ライフガードも、浜辺の自然環境保護を旨とする鎌倉の海を守る会も、定期的に「鎌倉の海」で環境美化活動を展開してきたことがわかった。ところが、「鎌倉の海」を訪れた回答者の6割以上がそうした活動の存在自体を認知していない現状も明らかとなった。ただし、この認知度は鎌倉市・藤沢市・逗子市の居住者とそれ以外とは大きな差が確認されることから、当該

地域近辺で一定の効果がある反面、遠方より来訪する利用者に対して、「鎌倉の海」の環境美化活動をアピールする何らかの手立てが課題になるといえるのである。

また、支払意志額という指標を用いて分析したところ、おおむね年齢層が高く、環境美化活動を認知している男性において、「鎌倉の海」への関心や愛着が高いことを示唆できた。翻ってみれば、今後はとりわけ若年層の女性に対して「鎌倉の海」の環境美化活動をアピールし、その価値を知らしめるような実践が必要となるのではないだろうか。

以上のように、本研究では「鎌倉の海」における環境美化活動の現状を分析し、今後の課題を検討することができた。ただし、聞き取り調査は上記 2 団体に限定され、調査時期も一般的な海岸利用のオフシーズンである 3 月ということで「鎌倉の海」のハイシーズンの状況は考慮されていない。今後はこのような点も踏まえた詳細な調査が望まれよう。

謝 辞

本研究の調査にあたり、多くの方々にご協力をいただいた。ご多忙のなか聞き取り調査に応じていただいた鎌倉ライフガードならびに鎌倉の海を守る会の皆さま、そして海岸利用中にわざわざ足を止めてアンケート調査にご回答いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

注

- 1) JAMSTEC ホームページの「深海デブリデータベース」(<http://www.godac.jamstec.go.jp/catalog/dsdebris/j/>) (最終閲覧日：2017 年 5 月 19 日) を参照。
- 2) 鎌倉ライフガード・ホームページ (<http://www.kamakuralifeguard.com/>) (最終閲覧日：2017 年 5 月 19 日) を参照。
- 3) green bird は「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した、東京都の原宿表参道発の都市環境美化プロジェクトである。主な活動は「街の掃除」であり、現在では日本全国で活動が行われている。(green bird ホームページ (<http://www.greenbird.jp/>) (最終閲覧日：2017 年 5 月 19 日) を参照)。
- 4) 現在、鎌倉ライフガードは公式の Twitter アカウントや Facebook アカウントを所有しているが、環境美化活動のアピールの際に十分に活かすことができていないという(鎌倉 LG に対する聞き取り調査(2017 年 3 月 7 日実施)による)。
- 5) JEAN とは、「漂着ごみ・散乱ごみの調査やクリーンアップを通じて海や川の環境保全を行っている非営利の環境 NGO」である(JEAN ホームページ (<http://www.jean.jp/>) (最終閲覧日：

2017 年 6 月 11 日) を参照)。

文 献

藤枝 繁・小島あずさ・大倉よし子 2007. 日本における国際海岸クリーンアップ (ICC) の現状とその結果. 沿岸域学会誌 20-3 : 33-46.

参考ウェブサイト

鎌倉市ホームページ (<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>) (最終閲覧日：2017 年 5 月 19 日)

鎌倉の海を守る会ホームページ (<http://kamaumipod.blogspot.jp/>) (最終閲覧日：2017 年 6 月 12 日)